桜、散る。そしてまた咲く？

ふぃゆ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
桜、散る。そしてまた咲く？

【Ｎコード】
Ｎ１１８１Ｃ

【作者名】
ふぃゆ

【あらすじ】
桜の花みたいにきれいな恋したいんですけど！

第1話　桜の花ってきれいだよね。

「わぁ・・・！サクラだぁ！」

私の名前は潤光（じゅんこう）　春羽（はるば）。

風乎瑠（かざうる）中学校の2年生。

今日もあいつと一緒に学校へ行く。

あいつとは海箜（かいくう）　四途（よっと）。小学校からの仲良しだ。

四途はよく女子にもてる。

「四途、おはよ～！」

私はいつもの待ち合わせ場所で四途と合流した。

「おはよう、春羽。今日も元気いいな、馬鹿みたいに。」

四途が挨拶代わりの憎まれ口を私に放った。

それから、学校に着くまでの約１０分間私たちは他愛もない話に花を咲かせていた。

四途と行く学校への道はとても短く感じる。

待ち合わせ場所で会ったと思えばすぐに学校へ着いてしまうのだから、こういう時ってなんて時間は平等に分けられてないんだろうとか思う。

《神様って・・・不公平だな・・・》

私はそんな事を思いながら学校の校門をくぐった。
教室に着き、私は自分の席に付いた。
「はぁ～るぼ！！おっはよ～う！！」
着いたそうそう私に飛びついてきたのは友達の理念(りんね)だ。
理念の後ろから四途が顔を出した。
「今年は早く桜咲いたね？春羽！」
と理念が言った。
「うん！」
「春羽は桜の花好きだもんねぇ～！」
たしかに私は桜が好きだ。
『春羽』という名前は私が3月に生まれたから、ということだ。
一時間目の英語の時間、誰かから手紙が回ってきた。
（誰だろう・・・？）
“春羽へ、
相談に乗ってほしいことがあるから、
放課後視聴覚室前に来てくれ。
ヨット”

・・・四途？
私は考えていた。
四途が私に相談？
なんだろう？
・・・・好きな人が出来た？
・・・いや、ないない！あるわけない！
そう思いたかった。
なんて考えてるうちに一時間目が終わった。
・・・・・じれったい。
「放課後まで・・・待ってられっか！」
そう言うと私は四途を引っ張って屋上まで行った。
「いって～な！腕ちぎれるだろ？」
「なに？相談って？」
私は、まるでカツアゲする女子学生みたいに四途の胸倉をつかんだ。
「はっきりしなさいよ！相談したいって言ったのはそっちでしょぉ？」
なかばキレかかってる私を抑えながら四途は言った。

「・・・いいか？俺は、春羽を信用して言うんだからな？絶対笑うな、他言するな！破ったらしばく。」

私はぶんぶん首を縦に振った。

「実は・・・・俺、好きな人がいるんだ。」

「・・・マジ？」

う、うそでしょぉ？！

第2話　桜、なんか散ってませんか？

正直びっくりした。

四途に好きな人がいるなんて・・・

「誰？」

私は聞いた。

怖かった。

なんで、

なんで

私じゃないんだろう。

私じゃ・・・ない

誰かと四途の恋を

応援しなきゃいけない・・・。

自分じゃない・・・誰かと

自分の好きな人が・・・もしかしたら付き合ってしまうかもしれない。

それが私には辛かった。
いろんな思いが私の中でぐちゃぐちゃに混ざったときに章間はさらりとその名を口にした。
「5組の乱立(らんり)って奴。」
「乱立!?」
今、四途が好きになった人だからきっと素敵な人なんだなって思った。けど!
乱立だけは絶対素敵な人じゃないって断言できる!
だって・・・・
「乱立ってこの中学校で一番の不良じゃん!あんた頭おかしくなったんじゃない??」
そう言ったら、四途は急に怒り出した。
「イカれてねーよ!」
「だって乱立ったら不良じゃん!!どこがいいの!?」
「可愛いーじゃん!!」
コイツのタイプがよくわかんない・・・。

ここは、私が四途を正しい道に戻してやるしかない！！

「・・・その相談乗った！！」

「まじで？？」

とか言っている四途の声は、私の耳には入らなかった。

「なんとか乱立とくっつけるから！！」

私は怒鳴って言った。

私は正直、四途が乱立を好きだというのは嘘だと思った。

放課後、私は乱立がいるクラスに行った。

乱立は本当に不良のオーラが漂っていた。

見た目は、髪は茶髪・スカートも膝上１５センチ・・・。

（ホントにアイツが好きなのか！？）

私は心の中で叫んだ。

しかし、相談にのってしまったからにはその相談にのらなくてはいけなかった。

（相談になんか・・・のるんじゃなかった・・・。）

「四途～！」

私は四途に乱立の事を教えに行った。

「えーっと、乱立は・・・膝上15センチのスカート、おまけに茶髪、そしてなんか二重人格っぽそうだから・・・とにかくあきらめてよ～。」
「いやだね！！」
「・・・・。」

このままでは埒が明かない・・・・。と、悟った私は話を変えることにした。

「しっかしさぁ、ホンッと乱立って不良だよね！！」
「でも、そこがかわいいんだ・・・・。」

・・・禁断の恋してるなぁ・・・・。

第3話　ちょっと、これやばくない？

その後、私たちは少し話した後、校門のところで別れた。

「お腹すいたぁ～！」

そう言った時、

「まじセンコーうざくね！？」

「！？」

・・・乱立だった。

「ただケータイ持ってただけでうっさいからぁ！！ホント、いっぺん死ねや！」

「言えてる言えてる～！」

・・・ほんとに不良だな・・・。

「え、まじで？うん、じゃぁいっとくわぁ。ー乱立ぃ！！」

「なにさ？」

「チョー大ニュース！！なんか、乱立のこと好きな奴いるんだってよ！！」

四途だ。

「誰よそいつ！！」

「四途とか言う奴！」

やっぱり・・・

「ふぅん、四途・・・ねぇ？」

「乱立どうする？」

なにやら決断を悩んでる様子だ。

このまま悩んでればいいのに～！^＿^；

「じゃあ、次の彼氏はそいつで決まり！」

・・・次の彼氏？

「いったい何人彼氏がいんのさぁ～！」

乱立の友達らしき人が乱立をからかうみたいにそういった。

「う～ん・・・5人くらいかなぁ？」

「すっげ――！」

「いやぁ～！モテる女は困るね～！」

「キャハハハハハ！！」

私はこの女を心のそこから軽蔑した。

そして、心のそこから四途を心配した。

（絶対四途と乱立をくっつけてはいけない！）

翌日、私は四途に乱立の事を話した。そしたら・・・意外な一言が返ってきた。

「んなわけないだろ！乱立かわいいんだぞ！？」

「そんな！あんたばっかじゃないの？人を見た目で判断するなんて！」

「バカなのはお前だ。乱立は悪い子じゃない！」

・・・だめだ、四途は全然私の話を聞いてくれない・・・。

「四途！お客さん！」

「あっ、四途くぅ～ん！」

乱立だ・・・。

第４話　頑張れ私！！

四途は乱立の方へ向かった。
ものの３分ぐらいで四途は帰ってきた。
「四途、なんの話してきたの？！」
「いや・・・、その・・・。」
よく見ると、四途の顔は真っ赤だ。
「もしかして・・・、乱立に告白されたの！？」
「・・・うん。」
四途の顔がさらに真っ赤になった。

――――――乱立のヤツ・・・、ついに動き出したな！
「そ、それで？アンタはなんて返したの？」
そう聞くと、
「ＯＫするに決まってんだろ・・・。」

あぁ、四途の顔はもう茹蛸みたいに真っ赤だ。

（どうしよう・・・）

私は乱立のクラスに行った。

「すいません、乱立ちゃんいますか？」

「うん、いるよー？呼ぶ？」

「お願いしまーす。」

「ｏｋ！乱立～！ご指名だよ～！」

ご指名って・・・ここはホストか！？

などと、心の中でツっこんいると、乱立がやってきた。

「はい、なんですか？え～っと・・・」

そっか、乱立（こいつ）にとって私は四途のただの幼馴染だと思われてるんだ！

「え～っと、分かる？私・・・四途の・・・」

「あぁ！」

そういうと、クラスからは分からないような風に声のトーンを下げた。

「私に負けた負け犬か・・・！」

・・・え？

「ど、どういう・・・」

「気づかないと思ってんの？あんたが四途のこと好きだって。」

乱立は私の舐めまわすように私を見た。

――――――――――見抜かれてる

「お生憎様、あんたじゃ絶対私に勝てないよ？ブゥ～ス！！！！！」

キャハハハハハと笑いながら席に戻っていく乱立。

私はいつの間にか泣いていた。

なんとかして、乱立と四途が付き合うのを阻止しないと！

私はそれしか考えてなかった。

「春羽！？」

私を『春羽』と呼ぶこの声・・・

四途だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1181c/

桜、散る。そしてまた咲く？

2010年10月10日12時17分発行